


活動成果報告書

令和7年度（第29回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ 「3か月のあかちゃんあつまれ！」 ～新生児訪問から切れ目のない支援を～	
グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名) 小田原市役所子ども若者支援課 木戸 綾乃	写真掲載カ所 
勤務先：小田原市役所 所 属：小田原市役所子ども若者支援課 所在地：〒250-0055 神奈川県小田原市久野 195 番地の 1 T E L：0465 - 46 - 7025 F A X：0465 - 46 - 6082	

◇活動方針

【事業開始の経緯】

本事業は、新型コロナウイルス感染症により、従来行っていた育児相談が対面での実施が難しくなり、その代替として、感染対策を図りつつ、従来の育児相談の気軽さを取り入れた事業として実施したものである。当時本市として、新生児訪問後から、4か月児健診まで期間が空き、生後3か月ごろの母子へのフォローが手薄だった現状があった。この“生後2～3か月”という時期は、産後うつリスクが高まる時期でもあり、対象を生後3か月の児とし、初めての育児で特に不安も多い第1子に限定をすることで、同じ月齢かつ同じ第1子が集まる機会を通して、保護者同士の交流や同じ悩みの共有もできる場として、本事業を立ち上げ、令和4年7月より開始した。

【事業の目的】

初めて育児をする保護者が安心して子育てを楽しむことができるよう、育児における悩みの解決、不安の軽減を図る。

【事業の対象者】

開催月に3か月になる乳児とその両親
(第1子に限るが、第2子以降は相談があれば対応)
右図のようなチラシを子育て支援センターなどに掲示。また、本市の4か月児健診の際にもチラシを封入。市民への周知を行っている。



活動成果報告書

◇活動内容

本事業は、大まかに身体計測・保健師講話・遊び方講座・相談の4つの内容がある。

〈保健師〉主に来所した児の発育・発達の確認、相談対応を担当。育児に関する悩みや児の成長と一緒に振り返ることを目的に対象者と関わっている。保健師の講話では、3か月までのあかちゃんの成長を振り返りながら、今後の発達の見通しについての話を行い、さらに、身体計測の値を保護者にフィードバックしながら、育児相談を必ず全員に個別対応で行っている。保護者からは授乳の相談が最も多く、その他育児手技の確認や最近の心配事など多岐にわたる。保護者も気軽に保健師に相談ができる機会となっている。



保健師講話



保健師相談

〈保育士〉遊び方講座を担当。大変な子育てを少しでも楽しめるよう働きかけることを目的に実施。遊び方講座では、3か月の赤ちゃんの発達にあった遊び方を伝えている。「ひげじいさん」や「なべなべそこぬけ」などの1度は聞いたことのある身近な手遊びうたを3か月の赤ちゃんと一緒に遊べるようアレンジしたものや、この時期に自宅で簡単に作れるおもちゃ等を紹介している。講座終了後も、おもちゃのアイデアや見とのかかわり方を保育士目線でも保護者に伝えている。

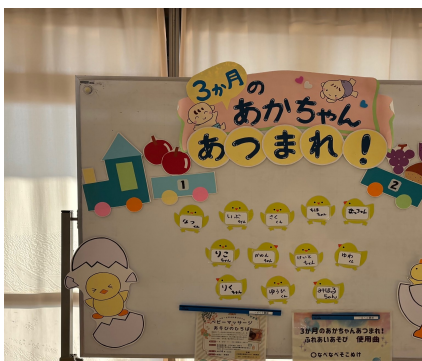
〈講座内の様子〉



遊び方講座の様子



手作りのおもちゃ



参加者には、ひよこ型のマグネットに名前を書いてもらい、事業開始時に名前を呼んでいる。



会場内には本市の子育てに関わるパンフレットを置いたり、事故予防についての掲示を行っている。

活動成果報告書

◇活動成果

- ・事業開始当初から参加率は出生した児の30%～40%で推移しており、母のみならず父の参加もある市内でも事業の周知が進んでおり、参加者数は年々増加している。本事業を楽しみに来所される方も増えてきた。開始から4年が経つ今年度では参加率50%の回もあった。

年度	対象児数	参加者数			参加率
		児	母	父	
R4	344	106	104	47	30.8%
R5	447	157	155	60	35.1%
R6	412	149	147	55	35.9%
R7（1月迄）	357	140	137	57	39.2%

- ・参加者アンケートでは、ほとんどの方が参加して「満足」と回答。自由記載欄では、この時期の遊び方を知ることができて良かったとの声や、同じ月齢の赤ちゃんと会うことができたことを喜ぶ声、また個別に保健師に相談できたことに対する安心の声が聞かれている。
- ・本事業は出産後、初めて児を連れてイベントに参加するきっかけにもなっている。翌月同じ会場で4か月児健診があるため、赤ちゃん連れで出かける練習ともなっている。
- ・個別の相談の時間では、今まで溜めていた育児に対する不安等を話される方や良い気分転換になっている方もいる。身内以外でゆっくり相談できる機会が本事業が初めての方が多く、参加者にとって個別の相談が必ずできるということで、好評の声を頂いている。
- ・本事業でフォローとなった児については、年間で10件以下。体重増加不良でのフォローが多く、授乳の方法等を助言することで、4か月児健診の時には状況も改善し、問題なく経過している。

◇今後の計画

本事業は身体計測、保健師講話、遊び方講座だけでなく、事業終了後会場を30分間解放しており、参加している保護者同士の交流の場としている。同じ第1子かつ同じ月に生まれていることで、母同士父同士のコミュニティが生まれている。子育てをする保護者同士の繋がりが薄くなっている中、本事業はそういった保護者同士の繋がりを作ることに生かすことができていると考えている。3か月のあかちゃんあつまれ！で知り合った母同士の繋がりで、子育て支援センターへ出かけるきっかけとなったり、本市の育児イベントに参加することに今後繋がっていくことも予想される。また、繋がりを持つことができた保護者については特に満足度が高く、保護者同士の繋がりに一定のニーズがあることも本事業を行って感じる部分である。

本事業は、事業開始以降、できるだけ多くの方に参加してもらえるよう開催日時を調整し、事業の中で伝える遊びを身近なものにすることや、季節によって遊び方を変えたりと日々試行錯誤しながら展開している。この時期から保護者が子どもと触れ合う時間を大切にすることで、今後の子どもの成長にも大きく影響していくと考えており、本事業とともに今年度からは7～8か月児を対象とした親子のふれあい事業も開始している。新生児訪問から切れ目のない支援、そしてどの月齢でも保護者と子どもが穏やかな気持ちで触れ合える機会を作れるよう、事業ごとの繋がりを大切にしていきたい。